

葉いもち防除は確実に実施

今年の苗いもちの発生量は昨年より「やや多い」と予報されています。いもち病は一度発生すると広範囲に感染が広がり、食い止めるのが難しい病気です。近年は、箱処理剤の普及により被害は少なくなっていますが、警戒を怠らずに徹底防除をお願いします。

補植用余り苗は速やかに処分

補植用余り苗は、圃場にあるだけでいもち病の伝染源となります。補植作業が終わったら、ただちに土中に埋没するなど確実に処分してください。

もしも、見つけたら。。。

いもち病を見つけたら速やかに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン剤等）の茎葉散布を行います。併せて、営農センター・営農課へご相談ください。

こんなところは要注意

田植え時に苗が重なって“密”になっている箇所や、肥料が重なり“密”になっている箇所、降雨や朝露などによって葉が濡れて葉面水分が“密”になっている箇所の“3密”圃場を中心に、いもち病無防除圃場の隣接圃場も合わせて、定期的に稲の葉に病斑が無い様子を確認してください。

葉いもち予防のための箱処理剤や側条施用を行っていない場合はオリゼメートを散布してください。

薬品名	オリゼメート粒剤
散布時期	6月15日頃
散布量	2～3kg/10a

緊急対策時（例）

薬品名	散布時期	散布量
ブラシン	発生確認時	粉剤DL：3～4kg/10a フロアブル：1,000倍液 60～150リットル/10a

異常気象に備える「転ばぬ先の杖」

去年は好天に恵まれ、活着・初期分けつが良好で「容易に茎数が確保」され、3年連続の不作は免れました。今年は暖冬で桜の開花時期には低温が訪れており油断のならない年になりそうです。どのような気象が訪れても対応する技術を、今から準備しましょう。

暑いとき

土壤の異常還元（ワキ）に注意!!

耕深が浅い場合、生わらが一気に分解を進めガス（硫化水素等）が発生し土壤が酸素欠乏になります。根の伸長が抑えられ、葉色が淡く、分けつ不足となります。圃場に足を入れた時に「ブクブク」と発生する気泡が、軽い場合は水の入れ替えを行い、盛んに気泡が発生する場合は夜間落水とし、土中に空気を入れます。6月中旬で茎数が目標茎数となった場合は中干しの準備に入ります。

茎数が不足している場合は、**硫マグ**（硫酸根肥料）を施肥（現物20kg/10a）し、茎数確保に努めます。更に、葉色が薄い場合は、**硫安**（現物5kg/10a程度）を追肥しますが、散布時期は6月下旬までとします。

曇天・低温時

分けつ確保を最優先!!

浅水管理による日較差を利用し分けつを促進させますが、低温時は深水管理で保温管理とします。

基肥一発型肥料のみ施用の圃場は、**硫安**（現物5～10kg/10a程度）追肥し、肥効（溶出）の遅れを補います。

基肥でケイ酸肥料を施用していない場合

どのような気象であっても、稲とケイ酸は「密」な関係。

高温時…葉で行う「呼吸」により稲体温度を下げ、光合成を盛んにし、十分な稔りにつなげます。

低温時…茎・根の活力を向上させ、分けつ確保に働きます。細胞がケイ酸の「鎧」をまとふことにより、いもち病菌の侵入を防ぎ、健全な稲体を維持します。

ケイ酸は、最高分けつ期以降、急激に吸収されるので、6月下旬以降の散布は「効果が半減」します。

けい酸加里（20kg/10a）

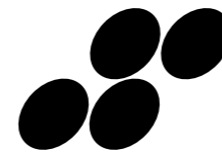
ケイ酸と加里を含み、葉を硬くし受光体勢を良くすることにより登熟が向上します。

おばこロマン大地（40kg/10a）

速効の「ケイサンエース」を70%含み、効率的にケイ酸を供給します。

マグコープ（20kg/10a）

リン酸と良食味米に寄与する苦土を含み、土壌を選ばない中間追肥資材です。



安心のネットワーク

NOSAI

No.3

農業技術情報

令和2年5月発行

発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所

監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



JA秋田おばこ

初期分けつ促進で豊作へ出発！ 水管理と雑草防除の再確認を

育苗期間中の4月中下旬には低温に遭遇したため、無加温出芽では平年よりも出芽日数が長くかかった事例がありました。播種盛期（50%）は4月26日となりました。

今年は少雪のため例年より早く4月上旬から圃場での作業が見受けられましたが、4月下旬の曇雨天により耕起始期（5%）は5月1日頃と平年よりも1日遅くなりました。その後、天候が回復した5月5日には盛期（50%）を迎えました。

いよいよ本田管理が始まりました。本号では6月中旬までの管理を特集します。基本的な栽培管理を再確認して、異常気象に備えた稲作を行いましょう。

5月下旬～6月中旬の栽培技術留意点

①初期生育確保

ここ数年は、初期生育不足による穂数不足、そして収量が上がらないという事例が多数報告されています。初期生育を確保するには、素早い活着を促し、栄養生長期間を少しでも長くし、分けつを確保することが必要です。

田植え作業は、最高気温20℃以上の温暖な日に行うことを基本として、田植え後は活着を促進するため3～4cm程度の浅水管理を行います。天気予報を確認し、地温を下げすぎないように水管理する必要があります。

③深水・中干し

太い茎に育てることで、米の品質や食味が上がるだけでなく、異常気象下でも実ることができる稲体になります。深水管理は、6月20日頃を目安に、目標茎数の8割程度が取れたら水深15cm以上の深水管理を1週間ほど行うことで、太い茎を作ることができます。

その後、中干しに入ります。中干し期間中は、梅雨と重なるので余裕を持って中干しをしてください。急激に干すと根を切り、生育に影響が出るので、田面に亀裂が1～2cm入り足跡が付く程度とします。中干しは必ず幼穂形成期までには終わらせてください。

②雑草対策

去年は雑草が繁茂した圃場が多く、残存種子量が多いと予想されます。雑草の生育や天気、使用予定除草剤の特徴に合わせた防除体系を取ることが必要です。

代かきから数えて、初期剤は10日以内、一発剤は14日以内に散布してください。気温が高いほど雑草葉齢の進展スピードが早まり、除草剤の殺草限界を超えてしまいます。雑草が多い圃場では、初期剤と一発剤、もしくは一発剤と中期剤の体系処理が効果的です。定期的に圃場に入り、発生状況を確認し、早めに対策することが必要です。

④異常気象

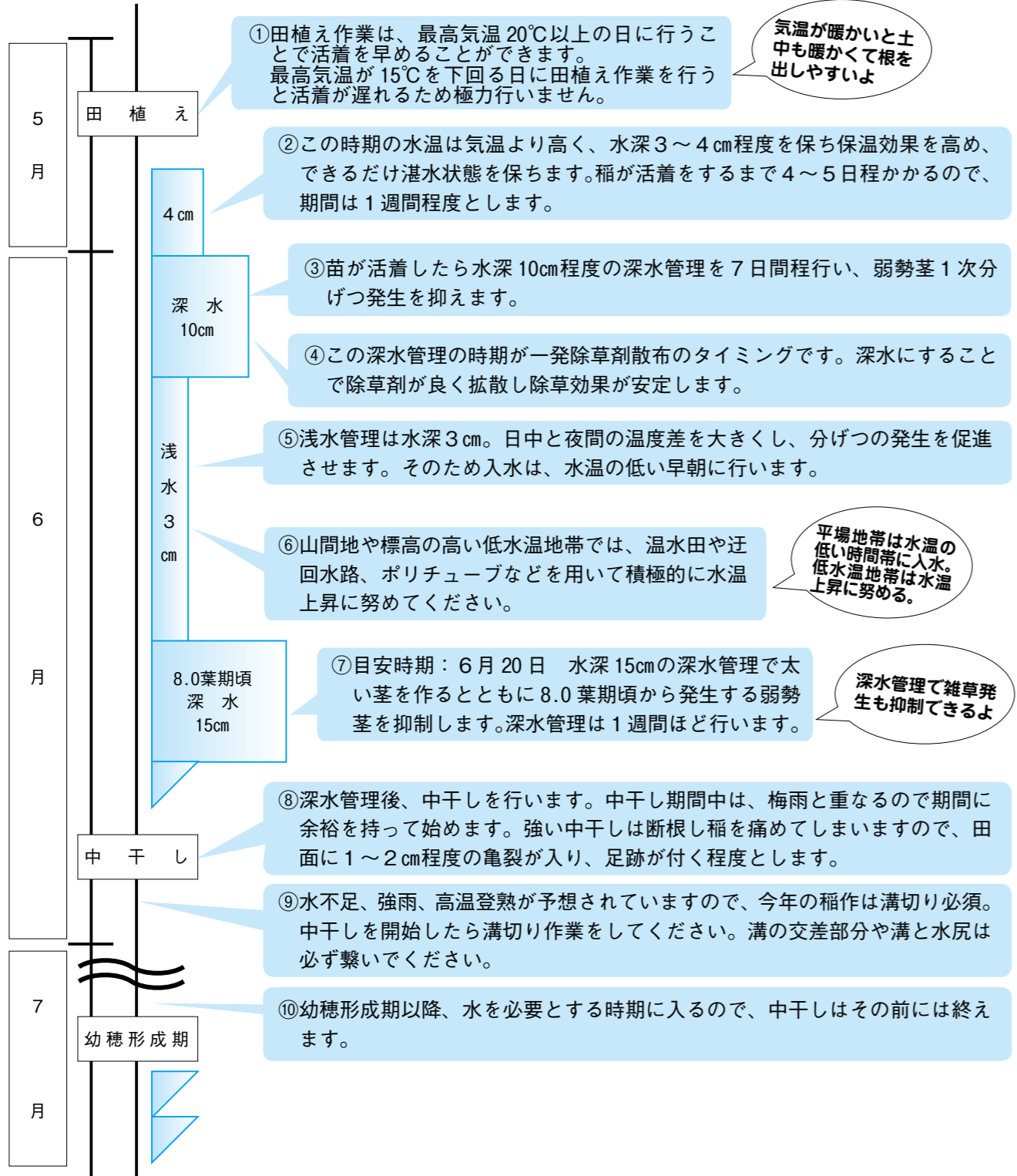
近年10年間は、猛暑や低温、日照不足、豪雨といった極端な天候に毎年遭遇していました。今年も必ず来ると認識し、対策をしたうえで栽培管理をしていくことが重要です。

畦畔や水口・尻などが壊れていないか、稲の様子を日々観察し、異常を感じたら原因を究明し対策を講じます。天気予報を確認したり、地域で情報交換したりすることで、天地の災いを人の力で乗り越えていきましょう。

初期生育確保に向けてスタートダッシュ

穂の絶対数が少なければ、いくら粒数を多くしても高収量は望めません。活着から始まる分けつ開始から、穂数がほぼ決まる7月中旬までにどれだけ必要な茎数を揃えることができるかがポイントです。初期生育を旺盛にする水管理を心がけてください。

収量計算方程式 $収量 = 穂数 \times 粒数 \times 登熟歩合 \times 千粒重$
 ↑重要!!



今年は積雪が少なく用水不足が心配されています。水不足時には、「水回しの順番」、「水路の見回り」、「地区内の反復利用」など利用者全員で話し合い、協力し合い、融通し合い、3つの「愛」で水資源の有効活用・調整を図ってください。

除草剤を効果的に効かせるポイント

いくら高価な除草剤でも使用時期が遅れたり、均平が悪かったり、部分的に水がかからない（露出している）場合、除草剤の効果が十分に発揮できません。

少し早めの散布を！

ラベルに3葉期までと記載されているものでも、0.5～1.0葉期早めに散布することで、除草剤の効果が安定し、雑草密度を大幅に減少させることができます。（注：代かきから10日間でノビエは2葉期になるといわれます。）

計画的な作業を！

除草剤効果を一番発揮させるポイントは「タイミング」です。“田植えが全部終わってから…”では散布遅れにつながります！田植え作業が長期に渡る場合は、途中で「除草剤散布日」を設け、適期散布できるようにしてください。

漏水箇所の点検保守を！

除草剤散布後、薬の層（処理層）が田面に出来るまでおよそ4日かかります。漏水箇所があると処理層の形成がうまくできず効果が発揮されません。

水深5cm以上の確保を！

除草剤成分が拡散していくためには、水深 5cm 以上の確保が必要です。フロアブル、ジャンボ、豆つぶ剤は 7cm 以上の水深で拡散が安定します。田面が水面から露出しないようにしてください。



収量・品質が低下する

雑草が繁茂した圃場では、収量が半減するというデータがあります。また、稲と雑草が養分競争することで、米粒が小さくなり米質が低下したり、減収したりしてしまいます。

斑点米の増加で収入減↓

ヒエやホタルイは斑点米カメムシ類の大好物。ヒエやホタルイが繁茂している圃場は斑点米カメムシの住処と食堂となり大集合してしまい、斑点米のリスクが増加します。そのような圃場では2回防除しても落等した事例があります。

異物混入(コンタミ)

雑草が繁茂したまま刈り取りをすると、米選機を使用しても混入する場合があります。玄米と大きさや比重に近い雑草種子は、米選機での選別が困難で、異物混入として落等原因になります。

とりこぼしたら中後期除草剤

薬剤名	ノビエ	ホタルイ	オモダカ	コナギ	散布方法
クリンチャー	○ 4～6葉期 (剤型による)	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布
ヒエクリーン	○ 4葉期まで	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布
バサグラン	効果なし	○ 増殖中期まで	○ 発生前期まで	○	落水散布
アトトリ	○ 4葉期まで	効果なし	○	効果なし	落水散布
ヒエクリーン バサグラン	○ 4葉期まで	○ 4葉期まで	○ 矢尻葉抽出期まで	○	極浅く湛水
クリンチャーパス	○ 5葉期まで	○ 増殖中期まで	○ 発生盛期まで	○	落水・極浅く湛水
レブラス	○ 4葉期まで	○ 花茎 10cm まで	○ 矢尻葉 3葉期まで	○ 6葉期まで	湛水散布
トドメMF	○ 5～7葉期まで (剤型による)	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布